

令和7年度自己評価表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校
学校番号 35

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）			カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）		
(1) 専門的な知識や技術とともに課題解決能力を身に付けた職業人を育成します (2) 社会貢献の意識や倫理観を身に付け、地域や社会の発展を担う職業人を育成します (3) 思いやりの心を大切に、元気で爽やかな挨拶のできる人を育成します (4) 互いに信頼して支え合い、協働的に学ぶ力を育成します (5) 自ら学び・自ら考え・主体的に行動し表現できる力を育成します			(1) 地域の産業界と連携した実践的な活動を行い、充実したキャリア教育を推進します (2) 各種資格・検定試験への挑戦を推奨し、専門的な技術や技能の定着を図る取組を行います (3) 主体的・対話的で深い学びなど、生徒の思考力・判断力・表現力を身に付ける学習を展開します (4) 学校行事や特別活動など、豊かな心・健やかな体、他者と協働する力を養う活動を精力的に行います (5) ボランティア活動や地域貢献活動など、豊かな人間性や社会性を身に付ける活動を行います		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラ・デュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	グラデュエーション・ポリシーのに沿って生徒が成長していると思いますか」という教職員対象のアンケート調査に対して、17%が「十分に成長している」、63%が「成長している」と83%が肯定的な回答をしているが、17%が「どちらとも言えない」という評価をしている。	・更に工業科としての深い知識や技術を身に付けさせる授業の実践を行っていきたい。 ・社会の発展に貢献する人物の育成を目指して、地域との連携を図りながら、主体的に行動し課題解決能力を身に付けさせる工夫をしていきたい。
学習指導	教科指導の充実	生徒による授業評価を基に教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校外で一人年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。 (授業の理解度（ポイント）) A:3.0以上 B:2.9～2.7人 C:2.6～2.0人 D:1.9～1.3人 E:1.2～1.0人 (相互授業研修参観回数（年）) A:5回以上 B:4～3回 C:2回 D:1回 E:0回	A	授業評価アンケート調査の「授業の内容がよく理解できているか」の項目において、生徒の評価の平均が3.5であった。 相互授業研修の参観回数は、平均5.1回であった。	・ICT機器を更に有効に活用し、生徒が興味・関心を持って学習できる授業、生徒が分かりやすい授業を目指したい。 ・相互授業研修や他校への学校訪問等にも意欲的に参加し、教員全員で自己研さんに努めていきたい。
	基礎学力の向上	定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。定期的に実施しているエスタブリッシュメントテストの充実を図る。 (家庭学習時間（平日1日当たり） A:1時間以上 B:59～45分 C:44～30分 D:29～15分 E:15分未満 (家庭学習時間（テスト期間1日当たり）) A:3時間以上 B:3～2時間 C:2～1時間 D:1～0.5時間 E:0.5時間未満	B	1日あたりの家庭学習時間は、平日の平均値が57.5分、テスト期間が124.0分であった。 漢字テスト・数学小テスト・英単語テストを定期的実施しているが、合格ラインに達しない生徒も見られた。	・生徒の学習に対する意欲と向上心が低下してきているように感じる。また、講座内での学力差も大きくなっている。努力しなければならないという意識を生徒に持たせるような学習指導と、生徒一人ひとりの理解度を把握するための課題や確認テスト、そして、理解度の低い生徒に対する個別指導に力を入れていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和7年度自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。 頭服指導を徹底し、本校生徒としての品位を失わないような身だしなみを心がけさせる。 (挨拶のできる生徒) A:75%以上 B:74～60% C:59～45% D:44～30% E:30%未満	A	挨拶のできる生徒については、教職員98%、生徒98%と評価が高く、来校いただいた方からも好評を得ている。 校門指導や教科、部活動での地道な指導の成果が現れているのではないかと感じている。少数ではあるが、挨拶に元気の見られない生徒もあり、家庭の協力も必要であると考える。 身だしなみについてはおおむね良好であり、大きな乱れはない。	・挨拶は相手との最初の接点であり、コミュニケーションを円滑にするために必要であることを校門指導をとおして理解させたい。また、校門指導においても専門委員会の生徒の活動と連携しながら自発的に成長していけるような取組としたい。 ・身だしなみを含めた基本的生活習慣が身に付くように家庭との連携を密にして協力をお願いしていきたい。
	社会規範の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 (交通事故発生件数(年)) A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件	A	交通事故に関しては今年度の発生件数はなく、交通安全についておおむね良好である。アンケート調査の「交通ルールを守って登下校しているか」では、教職員80%、生徒93%、保護者90%であるが、命に関わる問題でもあるので100%を目指して取り組んでいきたい。	・交通安全については、令和8年4月1日から、16歳以上の自転車の運転手が交通反則通告制度の対象となるため、生徒への周知・啓発を継続的に行っていきたい。 ・専門委員会や交通マナーアップ会議に参加する生徒と協力しながら交通ルールの順守やヘルメットの着用について徹底していきたい。
進路指導	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。 (就職試験の1次合格率) A:90%以上 B:89～75% C:74～50% D:49～30% E:30%未満	A	卒業生40名中、就職希望者は36名であり、うち33名が1次合格し合格率92%であった。残り3名も2次で合格し、就職希望者全員が内定をいただいている。 内訳は県外が22名、県内が11名、公募が3名で、県内に残る地元企業への就職率が年々増えており、近年は定着していると実感する。	・毎年、1・2年生を対象に地元企業によるマッチングフェアを2月に開催している。また、企業見学をはじめ、放課後の補習や夏季補習・面接指導など多方面で就職活動をサポートしている。来年度も引き続き取り組んでいきたい。 ・どの企業もコミュニケーション能力を重視していることから、普段の会話を大切に、一人ひとりに対応していきたい。
	進学指導の充実	生徒一人一人の希望に合わせた進路相談や進学情報の発信を積極的に行い、大学・専門学校などへの第1志望合格率90%以上を目指す。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:90%以上 B:89～75% C:74～50% D:49～30% E:30%未満	A	卒業生40名中、進学は4名である。大学が3名、専門学校が1名で、4名とも合格し、第1志望合格率は100%であった。 大学の3名は「総合型選抜」、専門学校の1名は「推薦選考」で受験している。4名とも進学先での目標をしっかりと持っている。	・本校では一般選抜で進学する生徒がおらず、大学入試共通テストも受験しないため、授業を中心に基礎学力の定着を今後も図り充実させていきたい。 ・国公立の受験などの進学先によっては、生徒一人ひとりに対して相談に乗り、放課後の補習や夏季補習等で対応して今後も充実した指導を行ってしていきたい。
特別活動	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。 (ボランティア活動等の参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:～3/4回 C:～1/2回 D:～1/4回 E:1/4回未満	A	今年度は23回のボランティア活動に延べ477名の生徒が参加した。全校生徒数が146名であり、参加呼び掛けに対して多くの生徒が意欲的に取り組んだ。	・非常に多くの生徒がボランティア活動に参加しているが、同じ生徒が複数のボランティア活動に参加している一面もある。引き続き啓発活動を充実させ、生徒の認知度を高め、参加しやすい環境を整えていきたい。
	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。 (部活動の加入率) A:95%以上 B:94～80% C:79～65% D:64～50% E:50%未満	A	運動部95名、文化部66名の合計161名が部に加入している。そのうち17名が2つの部を掛け持ちして活動している。部活動の加入率について、部活動に加入していない生徒が2名おり、加入率98%となっている。生徒数が減少している中で、レスリング部の県総体団体19連覇・世界大会出場、電気技術部WROの中四国大会優勝・全国大会出場、機械土木研究部溶接班の四国大会出場、写真部の高文祭・高文連写真展入賞など、今年度も各部がよい成績を残した。	・来年度は新八幡浜高校の1年生が合同チームとして本校の部活動と行動を共にすることになる部もあるので、生徒たちがやりがいを持って活動できるよう環境整備を確実に行っていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和7年度自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権教育	人権啓発の推進	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会、「人権だより」などを通して人権尊重の意識を高める。 (人権尊重の高揚) A:75%以上 B:74～60% C:59～40% D:44～30% E:30%未満	A	ホームルーム活動や人権集会、外部講師による人権講演会、人権委員夏季研修会などに積極的に参加し、人権意識を高めることができた。 特に委員会活動は、バラ展の参加や全校集会での発表など、新しい取組ができた。 「人権だより」の発行回数は年に6回であった。1年間の学校での取組を、分かりやすく紹介することができた。	・人権講演会や人権集会以外の日々の取組の中で人権啓発の機会を増やしていきたい。 ・「人権だより」では日々の取組についての紹介をするなど内容の充実を図りたい。 ・人権委員会の活動内容をより効果的なものに改善し、有意義な活動報告ができるようにしていきたい。 ・人権尊重の意識を育む環境づくりに励みたい。
工業教育	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。 A:6.0個以上 B:5.9～4.0個 C:3.9～2.0個 D:1.9～1.0個 E:1.0個未満	B	各種資格取得・検定の合格数は、平均5.3であり、目標の6に達することができなかった。	・資格・検定への挑戦や学習が十分に進まない生徒が増えている。補習時間の確保が課題となっているが、部活動との両立を考慮すると限界がある。今後は家庭学習の習慣化を図るための指導や支援を充実させ、合格に向けた取組ができるように努めていきたい。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」に関わる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。 (ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:90%以上 B:89～75% C:74～50% D:49～30% E:30%未満 (公開講座・出前授業等参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:～3/4回 C:～1/2回 D:～1/4回 E:1/4回未満	A	高校生ものづくりコンテストでは、電気工部門・測量部門に参加した。残念ながら四国大会等への出場はかなわなかった。 WROについては、2年生2名が挑戦している。今年度は、中四国大会で優勝したが、全国大会では4位で国際大会出場はできなかった。 竹灯りプロジェクトでは、他校との交流や道の駅みなと等での活動をととして地域の方と交流を深める活動を行っている。 また、課題研究発表会やインターンシップ発表会を実施し、興味関心の向上に努めた。	・ものづくりに興味を持つ生徒が減少しており、生徒を指導する時間の確保も難しい状況にあるため、有効な改善策を検討していきたい。 ・機械土木研究部および電気技術部の部員数も減少しており、これまで参加してきた行事への参加が困難になることが懸念される。今後は、創意工夫を凝らし、活動の継続と活性化に努めたい。
学校安全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。 (危機管理模擬訓練（年）) A:3回 B:2回 C:1回 D:-回 E:0回 (予告なしの防災訓練（年）) A:1回以上 B:-回 C:-回 D:-回 E:0回	A	予告なしの防災訓練1回を含め、4回の防災訓練を実施することができた。生徒はその場に応じて適切な対応ができていた。生徒・教職員の安全に対する意識の向上がみられた。	・引き続き緊張感を持って訓練を実施することにより、全員の防災意識の向上を図っていきたい。
業務改善	教職員の業務改善	ワーク・ライフ・バランスの適正化を図る。教職員の働き方改革を進め、休暇の取りやすい職場環境を整える。 (時間外勤務時間80時間（月）以下の教職員の割合・有休年10日以上取得率・ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合) 各 A:90%以上 B:89～70% C:69～50% D:59～40% E:39%以下	B	時間勤務外勤務時間80時間以下の教職員の割合及びワークライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合は昨年度から若干減少しているが、年次有給休暇年10日以上取得した教職員数は増加している。全体的には77%程度の達成率である。	・来年度は教職員数の減少が見込まれているため、校務分掌及び部活動の在り方について見直しを図り、無理がないように教職員の仕事量の均等化や職場環境の整備を進めていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。